

令和5年度「千代田学」に関する区内大学等の事業提案制度 共同事業  
自然災害発生時における大学を拠点とした帰宅困難者支援に関する研究  
(3)地域連携を視野に入れた帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発

酒井 治子(東京家政学院大学) 伊藤 マモル(法政大学) 堀 洋元(大妻女子大学) 下坂 智恵(大妻女子大学短期大学部)  
近藤 壮(共立女子大学) 谷島 貴太(二松学舎大学)

## 目 的

近年、地震や台風等の自然災害が発生しており、首都圏においても直下型地震やゲリラ豪雨などの予測困難な大規模自然災害にむけた対策が行われてきている。千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムの5大学・2短期大学を含む大学では、千代田区と『大規模災害時における協力体制に関する基本協定』を締結し、「区民や一般の帰宅困難者の受け入れ」、及び「情報・食糧・飲料水などの提供」などの使命を担うことになっている。そこで、今年度の目的は、千代田区内の公共施設および企業と連携し、大学の施設運営計画や災害対応体制の再構築に関する課題を明確化し、災害復興や防災対策に役立てるために、千代田区における過去の災害の記録や記憶、また、防災に必要な情報・用品等をアーカイブ化することを目的とする。さらに、教職員及び学生、地域の方々を対象とした帰宅困難者支援施設運営ゲームの開発のための基礎資料を得ることを目的としている。

## 研究内容・結果

### 【研究1】千代田区における過去の自然災害の歴史記録の集積と、 帰宅困難者施設における防災に必要な情報・用品等の教材化

- ① 千代田区における過去の自然災害の歴史記録として、安政大地震と関東大震災に関連する資料を収集、データベース化を行った。さらに「千代田区における過去の自然災害～安政大地震と関東大震災～」展と題した企画展を開催。また「関東大震災100年」と題したパネル展を計3回実施。
- ② 学生を対象として災害時の食事についての調査を実施。災害時の食事に対するイメージ、災害が起こった時に簡単に作れる料理について、災害が起こった時に食事はどのようにすると予想するか、その問題点や改善点、検討を重ねた。さらに、昨年までのレシピの改良及び新規メニューを考案して試作を行い、実習する15品を決定した。

### 【研究2】Wikipedia 記事の執筆を通して、防災のリスクを 認識し防災意識を高めるワークショップの実施

ゼミの学生からなるプロジェクトチームを作り、神田地区における火災の歴史をテーマに、Wikipedia 記事執筆ワークショップを実施。

### 【研究3】帰宅困難者支援施設運営ゲーム(KUG)の 開発とワークショップ

令和5年9月～令和6年2月、教員、学生、地域の方々と連携し、各大学の一時滞在者支援施設を縮小して作成された帰宅困難者支援施設運営ゲームを用いた図上訓練を実施した。発災時において、帰宅困難者支援施設の開設に伴って、どのような安全・衛生管理、感染症対策、備蓄品、通信手段などの確保、情報提供体制など、施設運営に関する情報共有が必要であるのか、学生及び教職員で協議しあい、臨場感を伴った体験ができた。これらを基に、各大学で施設運営ガイドラインの基礎資料を蓄積することができた。



## 考察・まとめ

令和3～5年度の研究成果を踏まえて、各大学での帰宅困難者支援施設運営ガイドラインの基礎資料を得ることができた。次年度以降も「災害時に向けた学生ボランティアの育成と、ネットワーク化に関する研究」をすすめて、ボランティアを育成するための教育ツールとして帰宅困難者支援施設運営ゲームを役立てていきたい。さらに、千代田区における過去の災害の記録、また、防災に必要な情報・用具等の動画コンテンツについて、教育効果の検証をすすめてしていくことを計画している。